

《インタビュー》

溶接の品質管理で活躍する WES 資格保有者

株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド
横浜工場 生産管理部 調達グループ
設楽 優さんに聞く

●2012 年前期試験で 1 級合格「約束果たした思い」

「溶接管理技術者資格 (WES) については 1 級を取得して初めて公言できるものと捉えていた。また、2 級の受験を勧めていただいた方々との約束を果たした思いもある」と語るのは、アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド (IHIMU) 横浜工場生産管理部調達グループの設楽優さん (29)。呉工場在籍時、製品の調達に際して溶接品質管理の重要性を学び、WES を知ったという設楽さんは、2010 年に 2 級、12 年には 1 級を取得した。今後、1 級保有者として業務に臨むうえで「昨年の 1 級合格は知識の部分が認められた結果であり、それに見合う経験を積むための場をつくるよう積極的に行動していきたい」と抱負を語る。

「メーカーと関わる機会を増やしていくことで、品質向上につながる具体的なアドバイスができるような調達マンが理想像」と語る設楽さん



●購買担当として臨んだ品質管理を契機に 2 級取得

「知識に見合う経験」が今後の課題と認識

「調達の間が現場に行かないでどうする」「WES 資格くらい持ってなくてどうする」

設楽さんが WES 取得を志したのは呉工場在籍時、購買担当として関わった品質管理部や検査担当関係会社のベテランによる温かい激励の言葉がきっかけだった。

「2011 年の異動に当たっては『横浜で 1 級を目指せ』と声をかけていただいた。1 級合格後、呉

を訪問した際には『横浜でもがんばっているな』とほめていただいたことが印象に残る」

2012年6月の1級評価試験では、計画的な受験勉強が奏功し順調に解答を重ねた。「試験に先立ち溶接会館で開催された講習会を受講した。講師の説明のポイントをまとめ、問題集を解き、通常業務と両立させ、試験に取り組んだ。筆記試験のハードルは高かったが、2級受験に当たって勉強した基本的な知識も活かした」

呉工場在籍時、2級受験の前には、上司に同行して関西地区の製鉄所を見学した。「実際に高炉を見ることができ、鉄という材料を知るありがたい経験となった。昨年の1級受験に際しては改めて2級のテキストから読み返し、受験勉強をスムーズに再開することができた」

「形に残るものに携わりたい」考えを貫き、就職活動では日本を代表する造船重機メーカーを志望、2008年IHIMUに入社した。「目に見えて、これは自分が関わったものだと言える仕事に憧れた。特に船は社会への影響力も大きく、理想とする就職先だった」

入社後3ヵ月間は呉工場で工場実習を経験。「溶接をはじめ現場作業を間近に見て『ものづくり』への理解が深まった」。2008年4月入社組で呉工場に配属された女性は設楽さん1人。「工場実習から戻ると、当初から希望していた調達に配属された。上司が『服はどうする』というので『作業着を希望します』と答えると快く承諾いただいた」

呉工場で商船の購買として担当したのは、ラッシングブリッジ（コンテナ積載に用いる大型構造物）、アノード（防食装置）、ストレーナー（濾過装置）、貫通金物、ボルト・ナットなど。「溶接製品に関しては、当社品質管理部の溶接担当者と共にメーカー訪問し、万が一の場合には溶接のやり直しを指示する立場として、メーカー担当者とも協力しながら、品質と納期を並行して管理した」

WESに関しては「設計や生産技術、品質管理の人達には、一定の知識がある証として捉えられているものの、周りにはこの資格自体知らない人も多くいる」と指摘する。

「調達の業務から言えば、WESは必須の資格ではない。しかしながら、WESを保有することにより、社内関連部署だけでなく、取引先からも、ある程度の知識があるという認識を持って頂ける点で、意味があると思う。個人的には名刺にもWESの資格名を書きたいと考えているし、多くの関係者にWES資格が認知されることを期待する」



「工場実習から戻ると、当初から希望していた調達に配属された。上司が『服はどうする』というので『作業着を希望します』と答えると快く承諾いただいた」

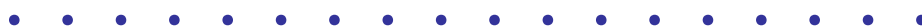
設楽さんが溶接品質や WES を強く意識するようになったのは、あるメーカーに品質管理部及び検査担当関係会社と同行したことがきっかけとなった。

「一度、製品の溶接に不具合があり、納期に影響が及んだことがあった。溶接品質改善指導により、次回以降問題は生じなくなったが、この経験を境に、WES という資格を知った。同時にこの経験がなければ、WES 資格を取得していなかったと思う。調達先のメーカーで、ある溶接技能者が引退し、別の技能者に代わると、溶接の外観も別のものになる。前回まで美しい外観だったのに今回は粗い、といったケースでメーカーに確認すると、技能者が代わったという。溶接が品質に直結する意味で興味深い。担当する品目に溶接が適用されているなら、メーカーに直接足を運び、作業現場の状態を確認することを重要視している。WES 資格の勉強によって得た知識が役立つことも多い」

自ら志望した造船メーカーの調達を担当して4年半。最近では経験と知識のバランスが大切であると感じている。

「昨年の WES 1 級は知識の部分。それに見合う経験を積むため、自ら機会をつくり行動していきたい。一朝一夕には難しいが、数年後には担当業務の範囲内で WES を生かせるようになっているのではないか」

WES 1 級合格をともに喜んだ先輩からは「よくがんばった。次は特別級もある」と激励が止まない。「単に溶接に関する指摘にとどまらず、メーカーと関わる機会を増やしていくことで、品質向上につながる具体的なアドバイスができるような調達マンが理想像。国際資格取得を含め今後も知識の向上に努めていきたい」



(したら・ゆう) 2008 年上智大学法学部卒業、IHIMU 入社。同年 7 月呉工場生産管理部調達グループ配属。購買担当として部材・部品の価格交渉、品質管理、納期管理を行う。11 年 4 月横浜工場生産管理部調達グループに異動。東京都出身

※本文は 2012 年 10 月 18 日付取材に基づくものです。